

# 平成22年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

## 1 概要

### (1) 農林業被害の推移

山口県における野生鳥獣による農林業被害は、近年、増加傾向にあり、平成22年度は、被害金額が対前年比11%増の8億円の被害が発生しています。

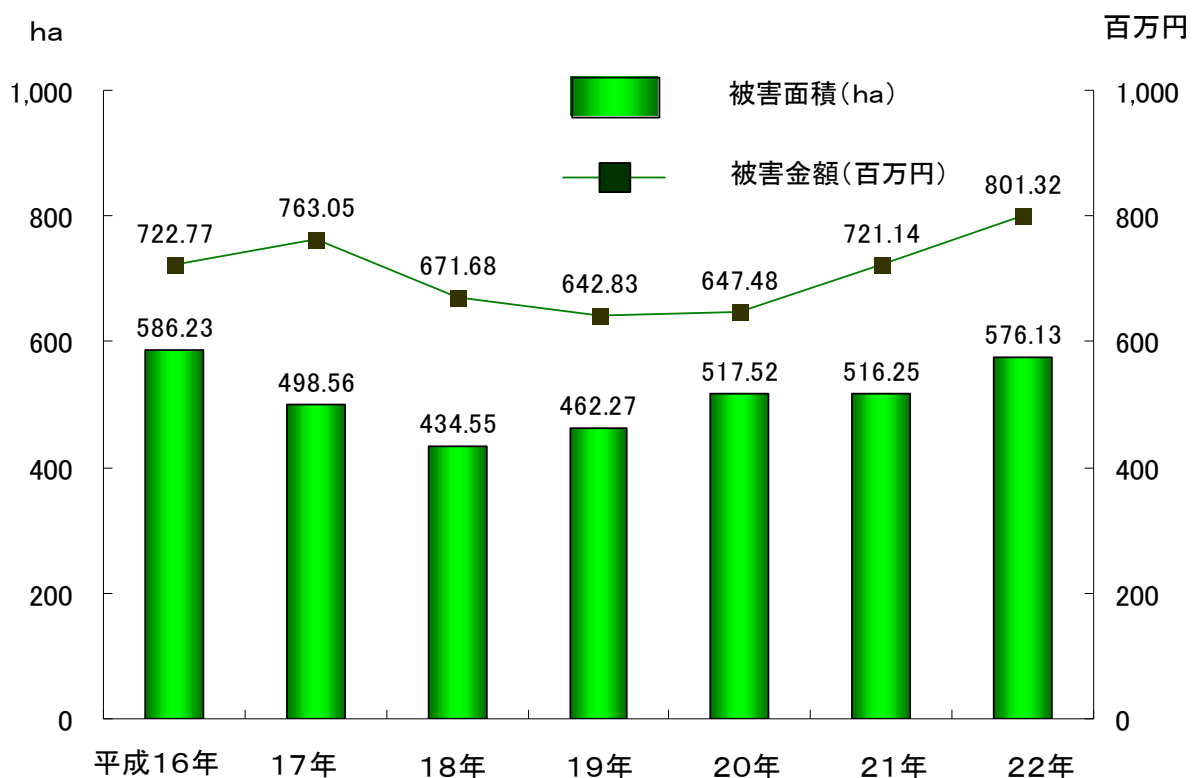


図-1 被害面積及び被害金額の推移（鳥獣被害全体）

## (2) 鳥獣別・作物別被害の内訳

平成22年度の被害金額を鳥獣種別で前年度と比較すると、シカ・カラスによる被害が減少したのに対し、被害割合の大きいイノシシ・サルによる被害が大きく増加しています。

鳥獣別の被害金額は、獣類が6億7千万円（全体の84%）、鳥類が1億3千万円（全体の16%）となっています。

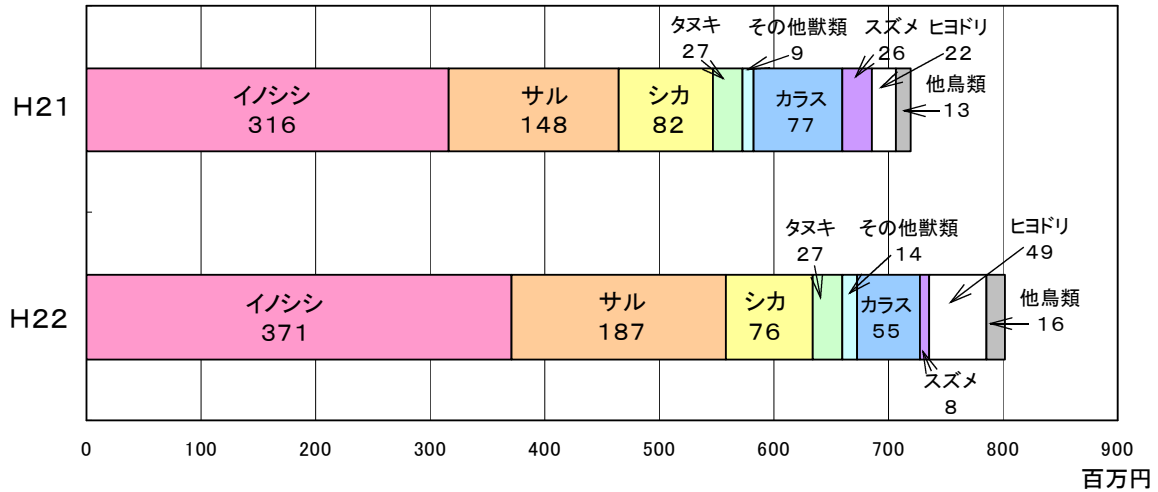


図-2 鳥獣別の被害金額

作物別に比較すると、主要作物である水稲・果樹・野菜が軒並み増加しており、特に野菜は対前年比13%増の1億5千5百万円の被害となっています。

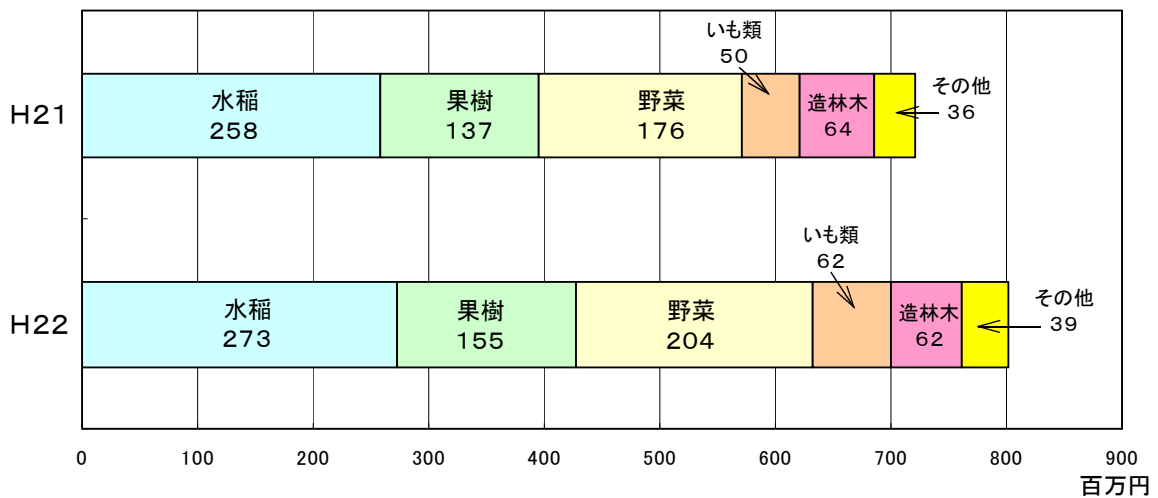


図-3 作物別の被害金額

## 2 獣類別の被害状況

### (1) イノシシ被害

イノシシによる農林業被害は、平成18年度以降増加傾向にあり、平成22年度は対前年比18%増の3億7千万円となっています。

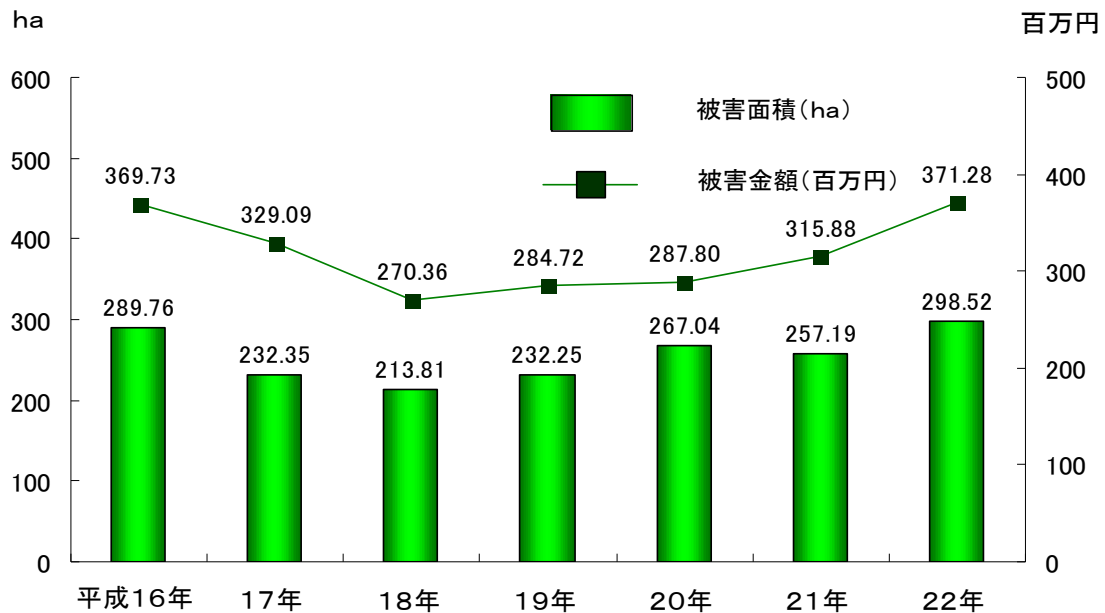


図-4 被害面積及び被害金額の推移（イノシシ）

被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合は4割強で推移しており、野生鳥獣による農林業被害の中で、最も深刻な影響を及ぼしています。

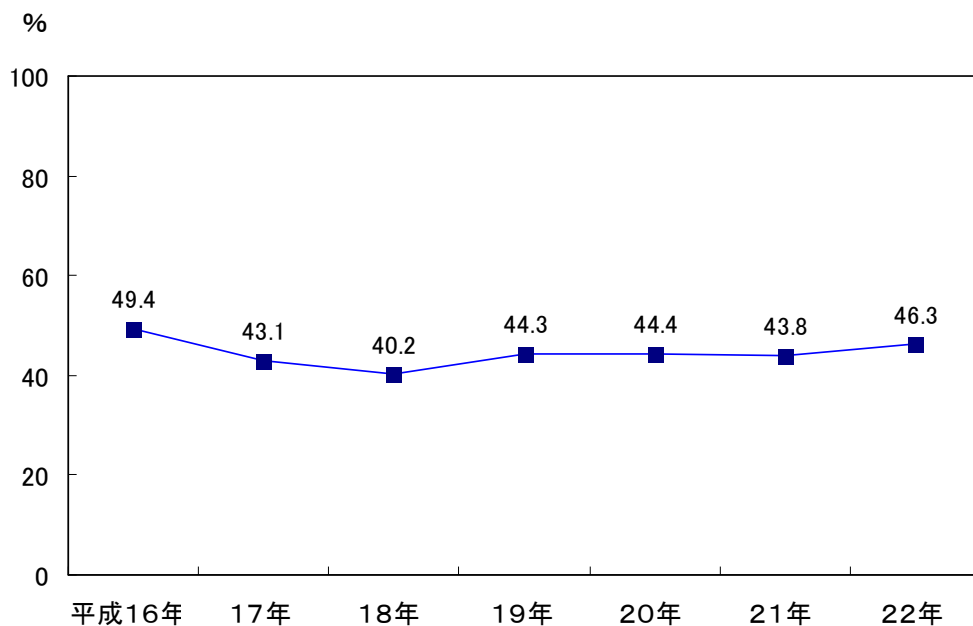


図-5 被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、水稻が2億3千8百万円と最も高く、被害金額全体の64%を占めており、次いでいも類、野菜、果樹の順になっています。

また、県内のほぼ全域で被害が発生しています。

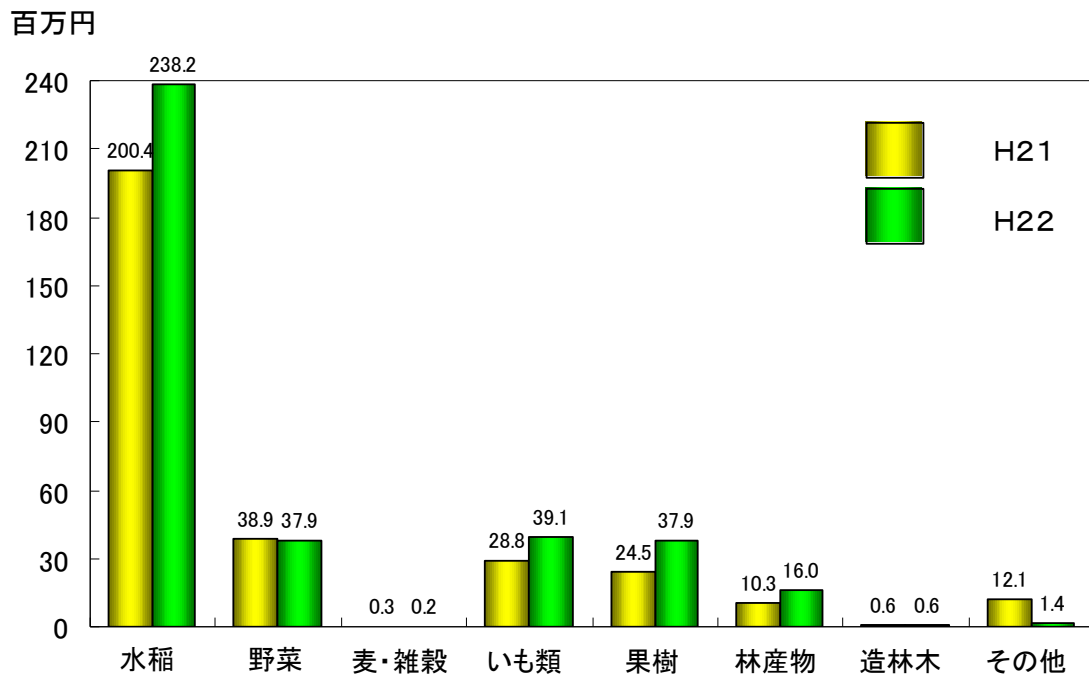


図-6 イノシシによる作物別被害金額

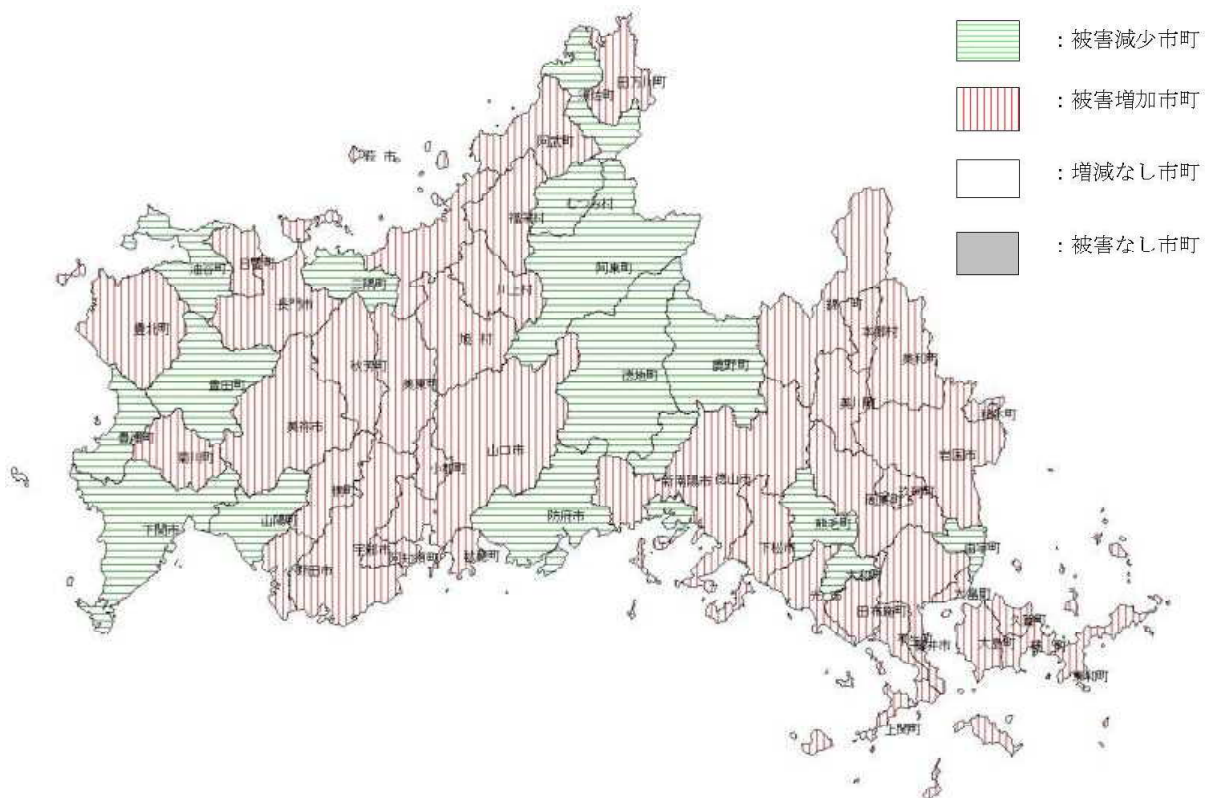


図-7 旧市町村別被害金額の増減

## (2) サル

サルによる農林業被害は年々増加しています。

平成22年度は、対前年比26%増の1億8千7百万円の被害となっています。

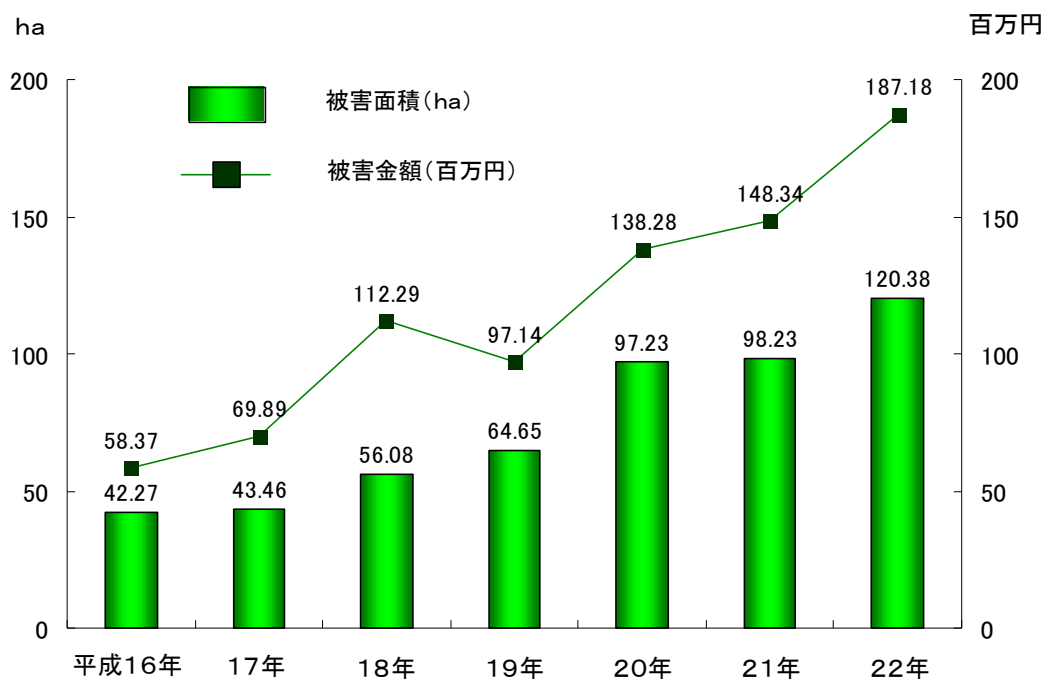


図-8 被害面積及び被害金額の推移 (サル)

被害金額全体に占める割合も増加傾向にあり、平成20年以降は20%を上回り、イノシシ被害に次ぐ割合になっています。

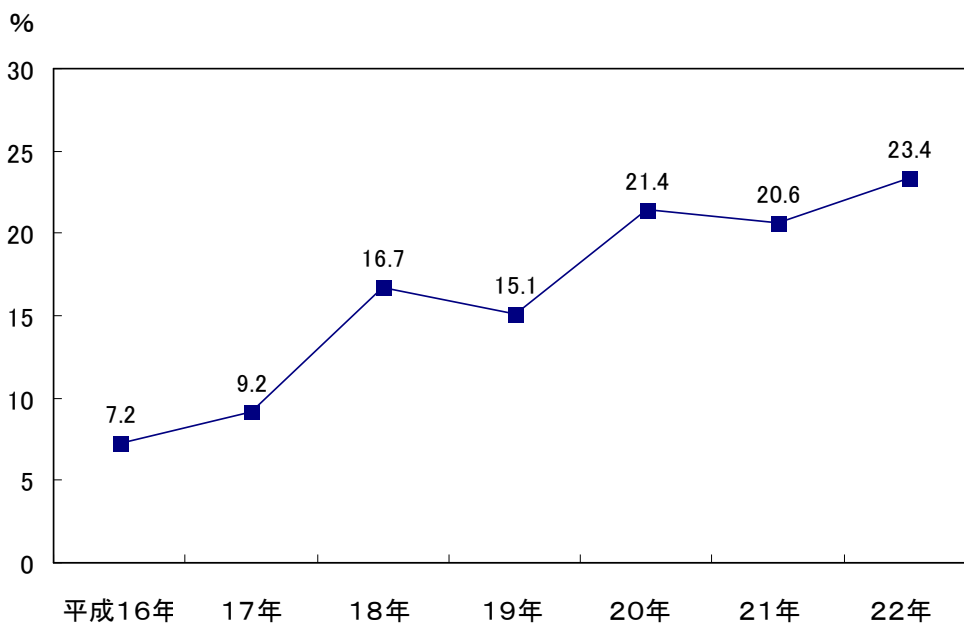


図-9 被害金額全体に占めるサル被害の割合の推移

作物別の被害金額では、野菜が1億2千万円と最も高く、被害金額全体の64%を占めており、次いで果樹、いも類、水稻の順になっています。

また、多くの地域で被害が発生しています。

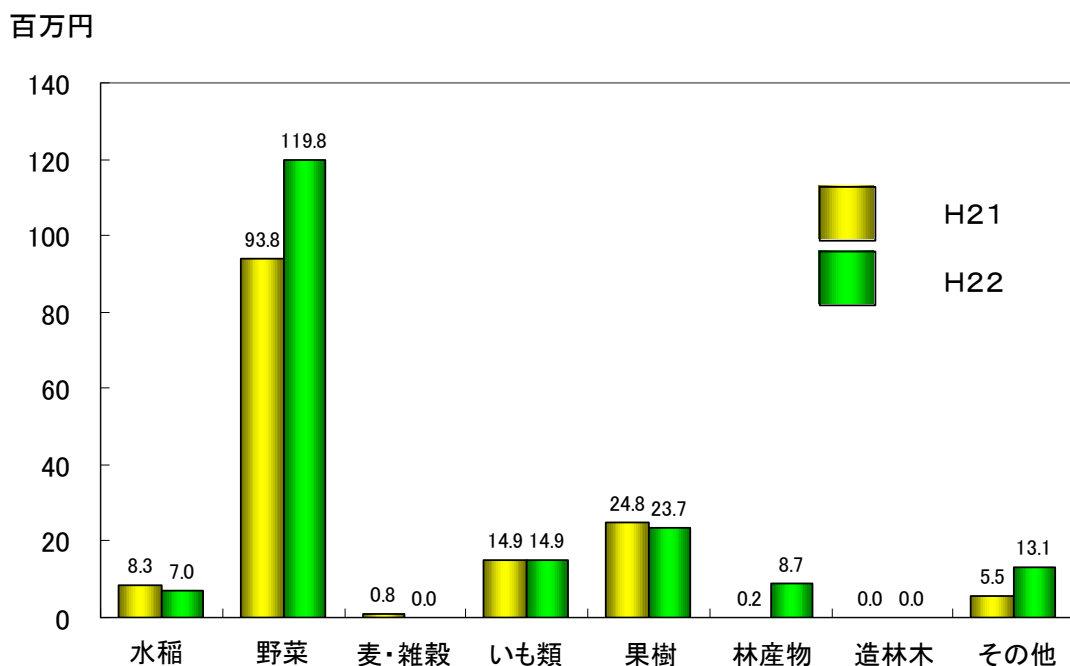


図-10 サルによる作物別被害金額

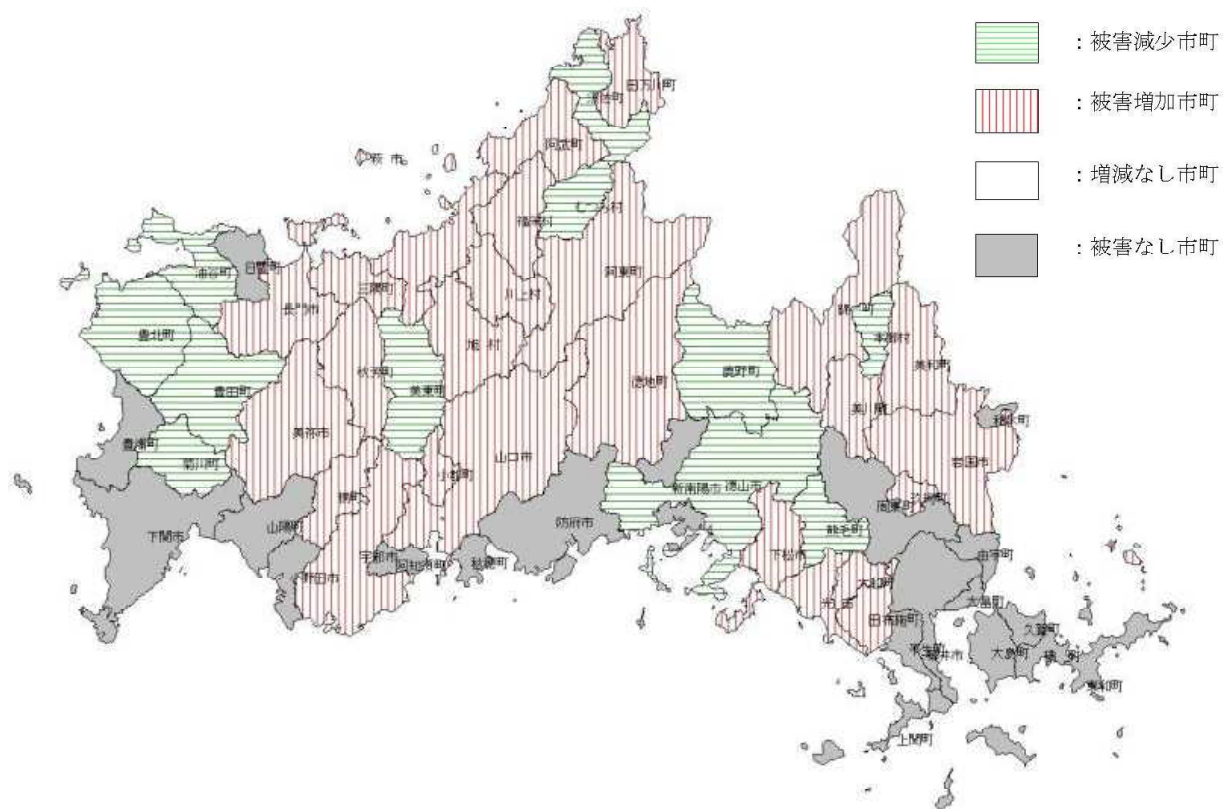


図-11 旧市町村別被害金額の増減

### (3) シカ

シカによる被害は、平成18年以降増加傾向にありましたが、平成22年度は対前年比7%減の7千6百万円となっています。

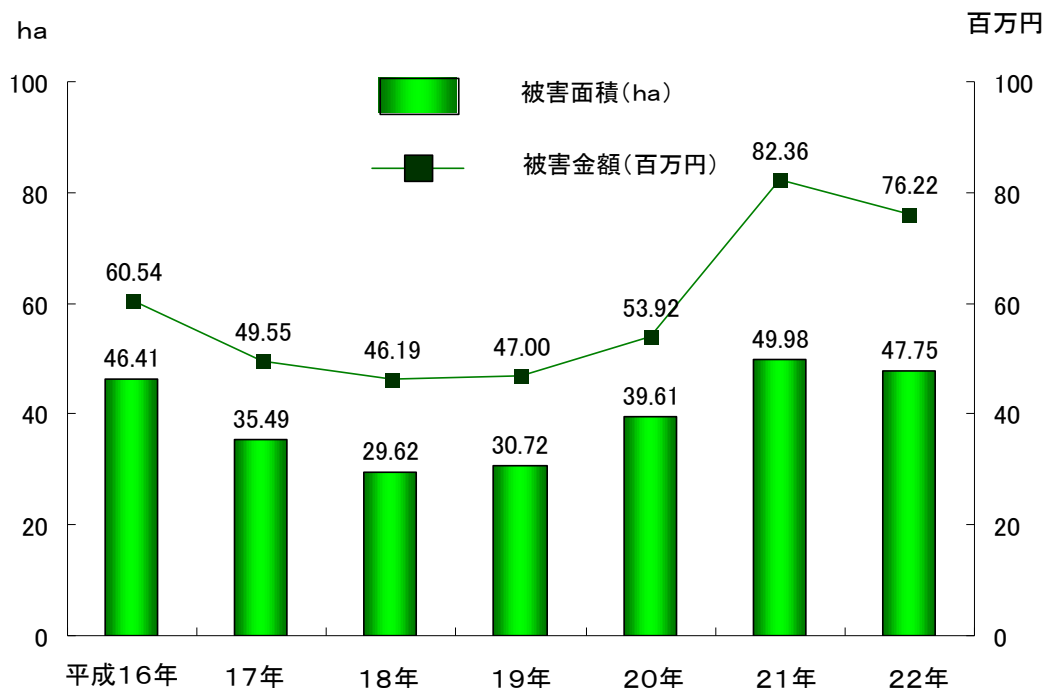


図-12 被害面積及び被害金額の推移 (シカ)

被害金額全体に占める割合は増加傾向にありましたが、平成22年度は被害金額全体が増加する中でシカ被害は減少に転じたため、割合は1割を下回りました。

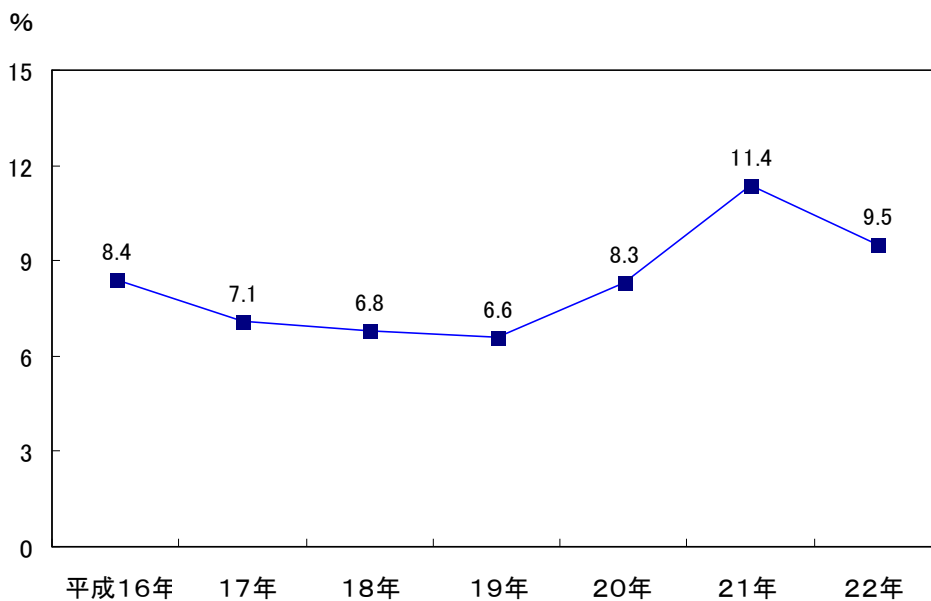


図-13 被害金額全体に占めるシカ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、造林木への被害が最も大きく全体の80%を占めています。水稲・野菜・果樹については被害金額が減少しています。

また、県西部に集中して被害が発生しています。

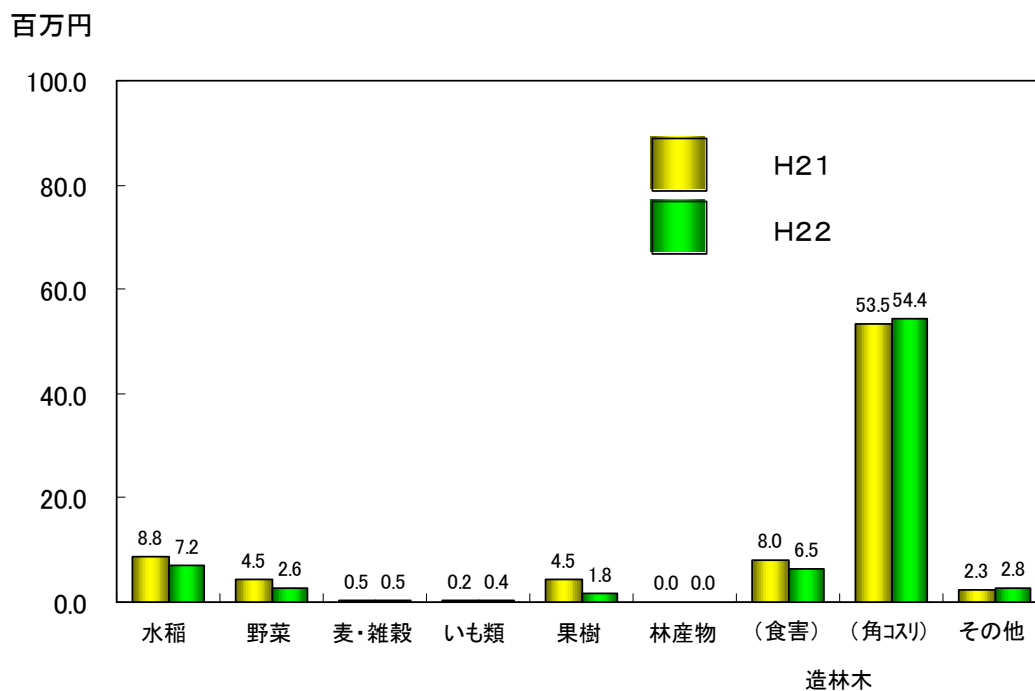


図-14 シカによる作物別被害金額

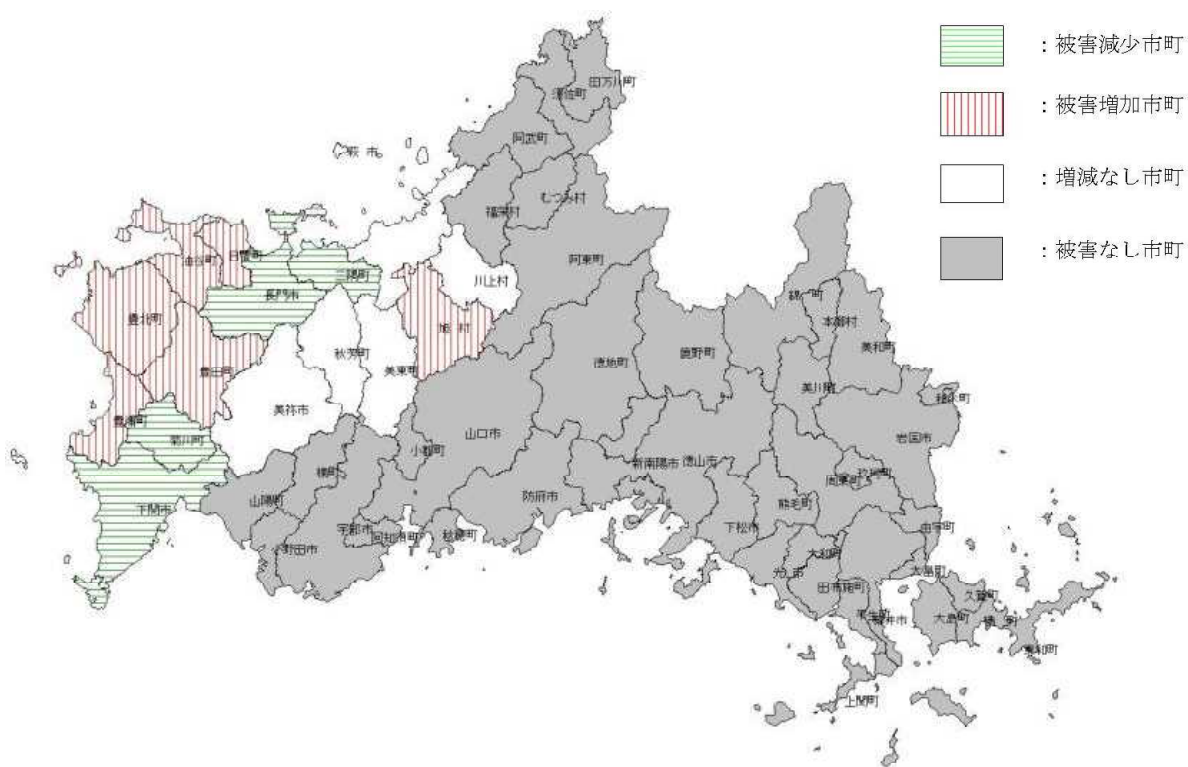


図-15 旧市町村別被害金額の増減



#### (4) クマ

クマによる被害は平成16年度以降減少傾向にありましたが、平成22年度は対前年比284%増の8百50万円となっています。

また、県東部から中部の山間部に被害が集中しています。

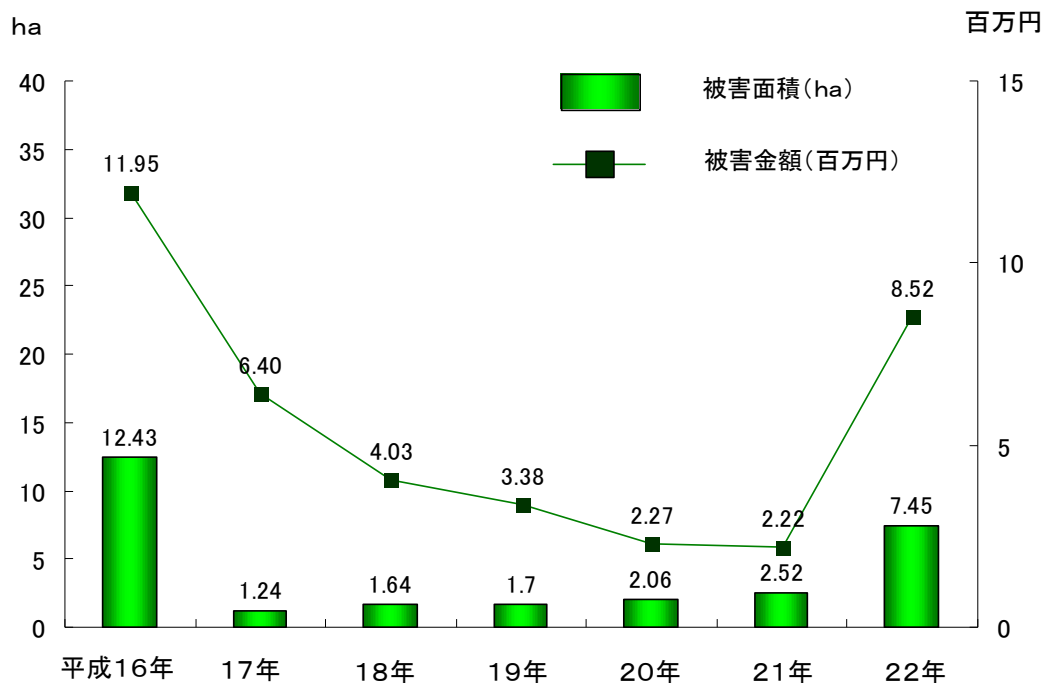


図-16 被害面積及び被害金額の推移 (クマ)

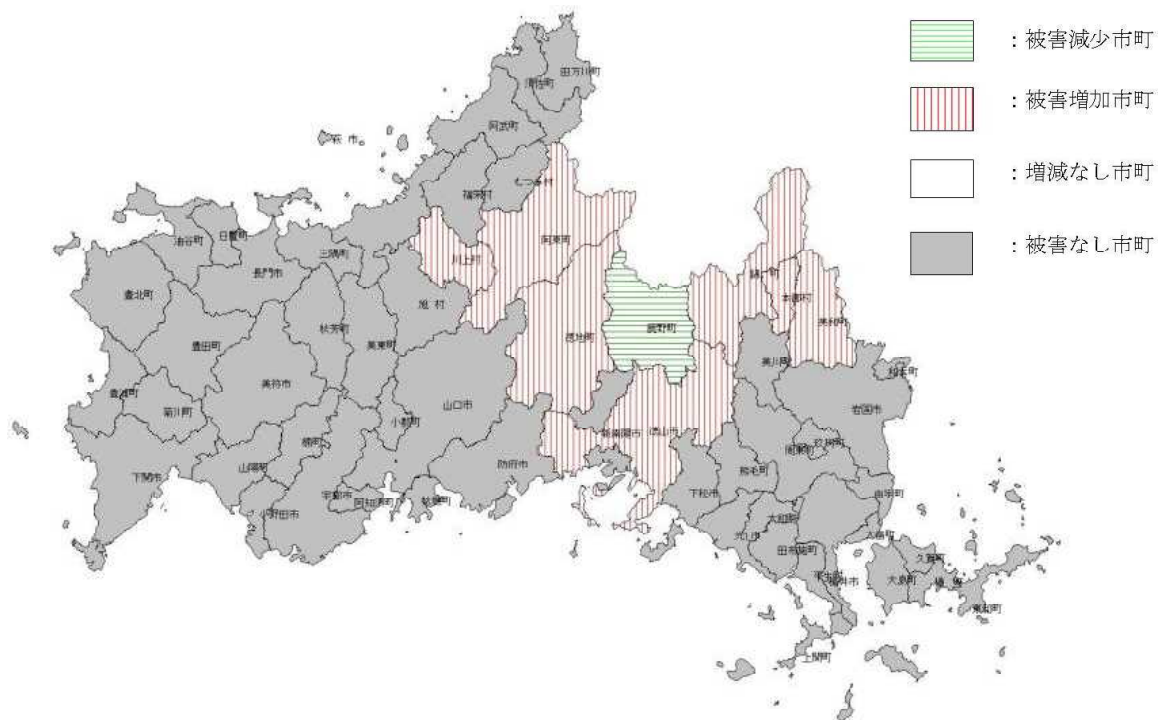


図-17 旧市町村別被害金額の増減

### (5) タヌキ

タヌキによる被害は、平成17年をピークに減少しており、平成22年度は対前年度比10%減の2千5百万円となっています。

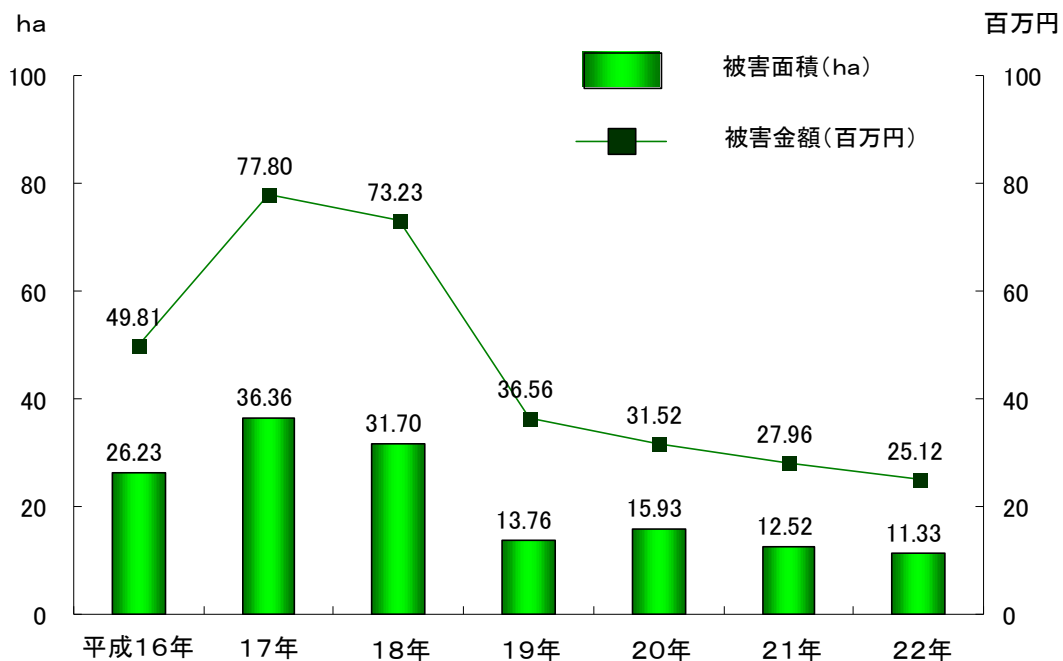


図-18 被害面積及び被害金額の推移 (タヌキ)

作物別の被害金額では、野菜・いも類が減少しましたが、果樹は増加しています。

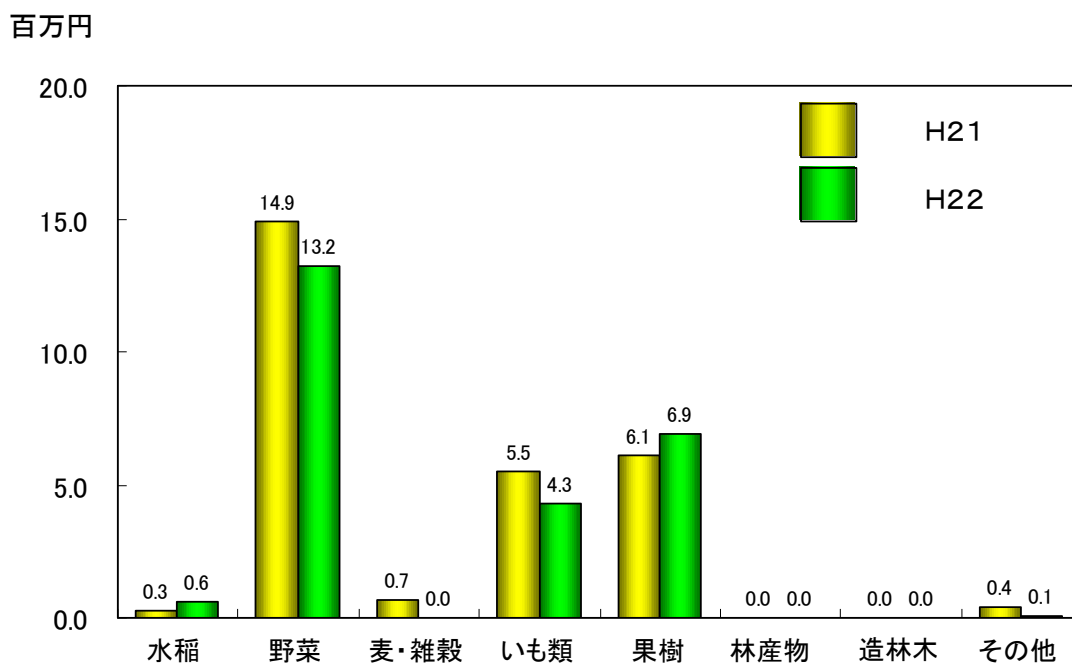


図-19 タヌキによる作物別被害金額

## (6) その他の獣類

その他の獣類による被害は減少傾向にあり、平成22年度の被害金額は対前年度比22%減の5百万円となっています。

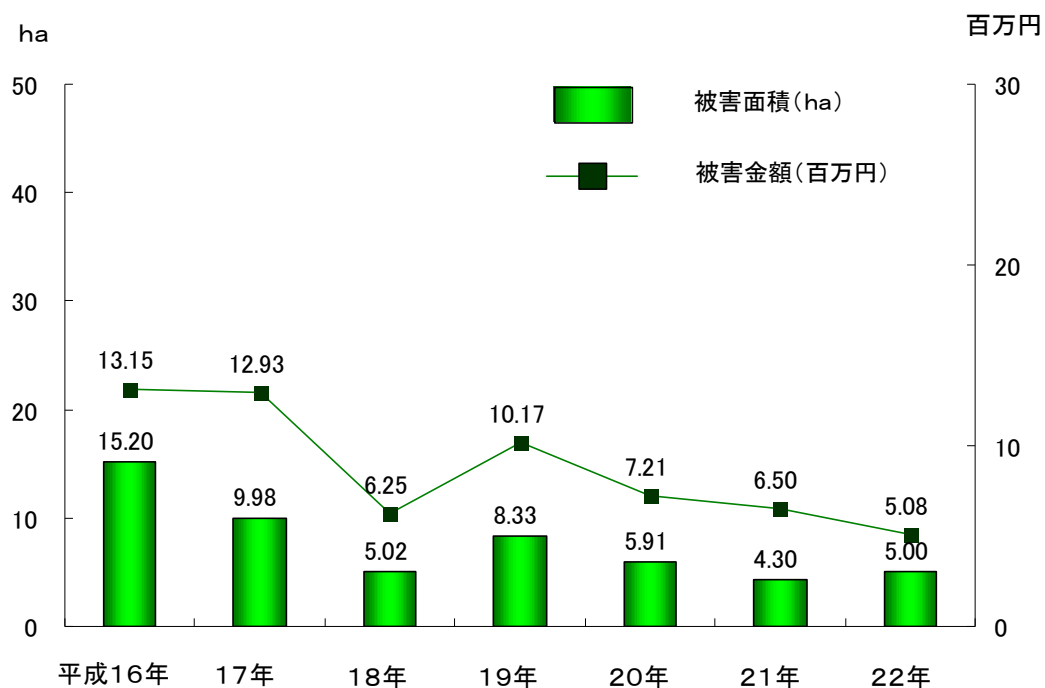


図-20 被害面積及び被害金額の推移（その他獣類）

主な獣種はウサギですが、特定外来生物であるアライグマの被害が増加しています。

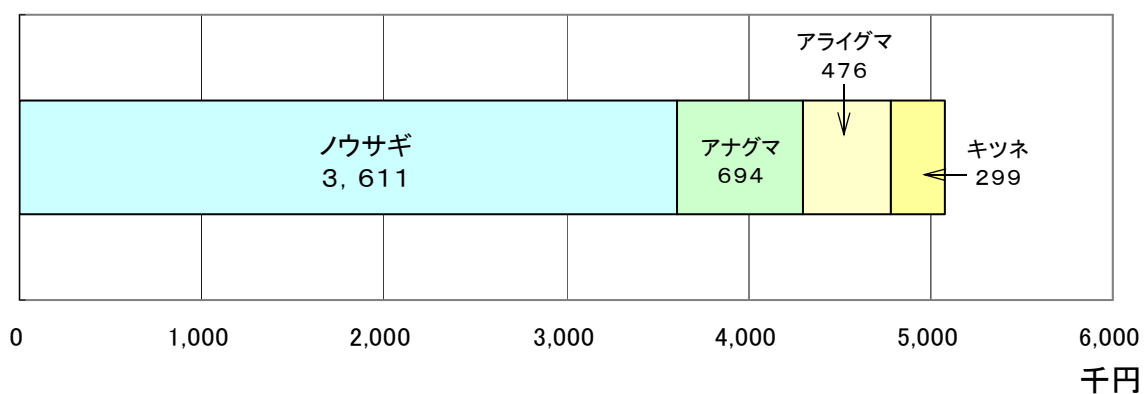


図-21 その他獣類による被害金額の内訳

### 3 鳥類による被害状況

鳥類による農林業被害は、平成17年以降減少傾向にあり、平成22年度は対前年度比7%減の1億2千8百万円となっています。

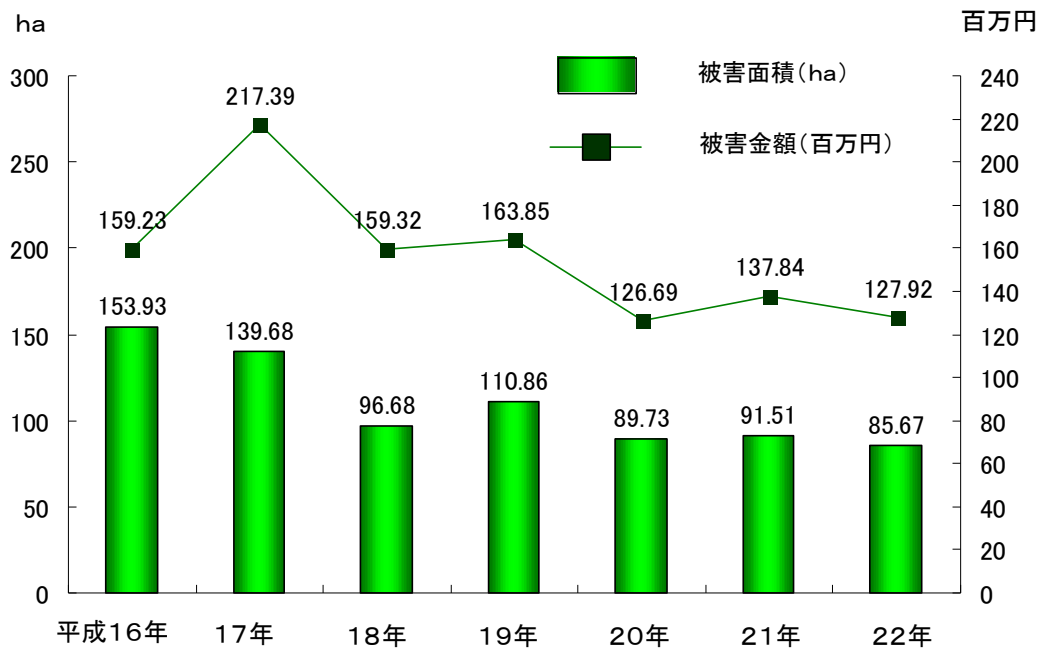


図-22 被害面積及び被害金額の推移（鳥類全体）

被害金額全体に占める割合も減少傾向にあります。

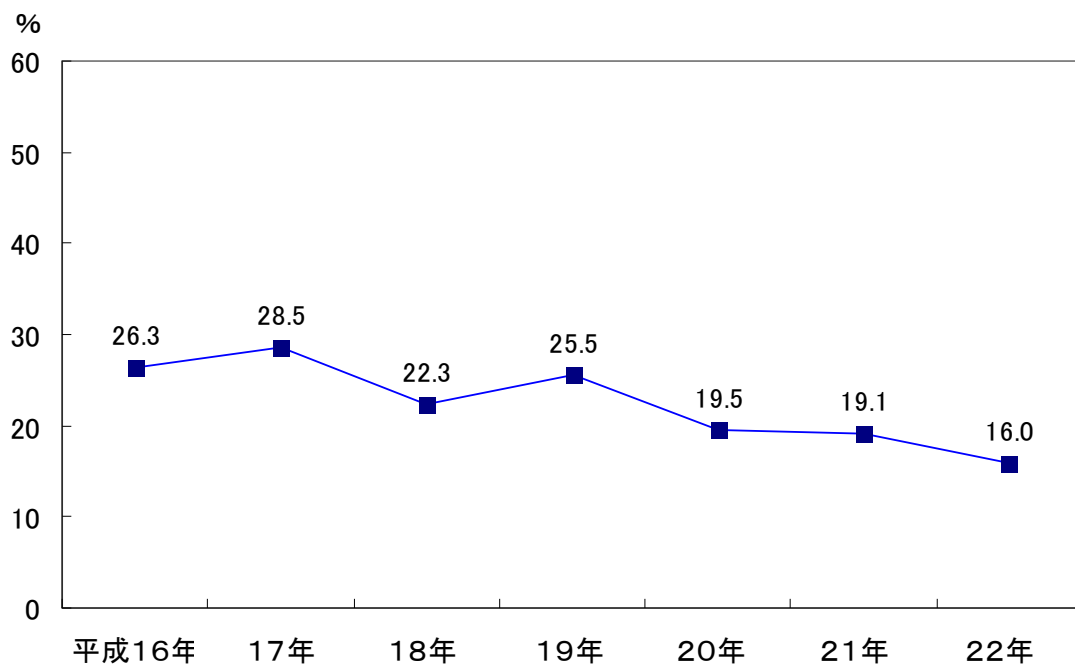


図-23 被害金額全体に占める鳥類被害の割合の推移

鳥類被害の中でも特に大きな被害を及ぼしているのは、カラスとヒヨドリによる被害で鳥類被害全体の81%を占めています。

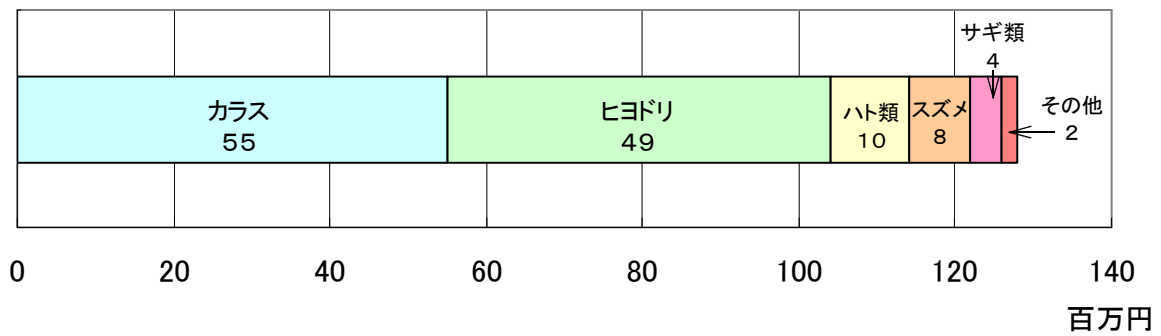


図-24 鳥類の種類別被害の内訳

作物別の被害金額では、果樹が最も大きく次いで野菜、水稻となっています。

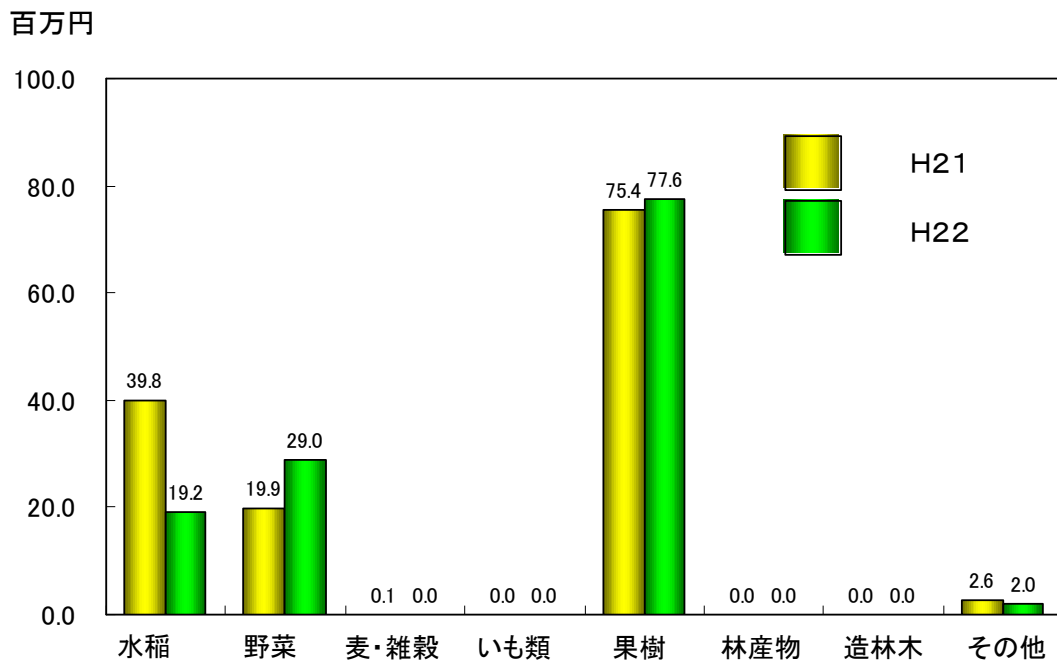


図-25 鳥類による作物別被害金額